高　松　市

石清尾山古墳群

緊急発掘調査概報（第２次）

1972.-3

高松市教育委員会

例　言

1．所　在　地　　高松市峰山町　西宝町　鶴市町

2．調査期間　　昭和46年8月12日から昭和47年3月31日まで

3．調査主体　　高松市教育委員会

4．調査の組織

調査団長	高松市教育委員会教育長	三木嘉光	
調査委員	高松市文化財保護委員	市原輝士	
		横井金男	
		新田藤太郎	
		坂田　勲	
		小竹一郎	
調査指導員	香川県教育委員会社会教育課	松本豊胤	
	武蔵工業大学附属高等学校教諭	佐藤善一	
調査員		高畑知巧	
		内藤敏典	
		松本敏三	
調査補助員	四国学院大学	請川富子	三谷信子
		三井敏子	中谷朋子
		大西道子	三録　豊
		関根淳二	西谷れいこ
	広島大学	古瀬清秀	
	善通寺第一高等学校	近藤ツヤ子	大西由起子
		大林慶子	大西啓子
		高木淳子	金場知子
		川下雅代	
	高松高等学校	竹原良記	
	高松南高等学校	松木幹治	
		堀　光二郎	堀　ジーナ
顧　問	国立東京博物館原史室長	亀井正道	

目　　次

1．調　査　の　経　過……1

2．調　査　の　概　要……2

3．遺　跡　の　概　要……4

4．資　料　写　真……10

1. 調査の経過

石清尾山古墳群の調査は、峰山開発構想に関連して文化財保護の立場から国庫補助事業として実施するもので、摺鉢谷の西側綾線から石清尾山の東側稜線に点在する16基の小古墳について緊急発掘調査するものである。

なお、年次別調査経過は次のとおりである。

（1）43年度　分布調査

（2）45年度　発掘調査　測量（地形図作成）

（3）46年度　発掘調査　墳丘計測

2. 調査の概要

(1) 調査古墳

古墳番号	所在地	墳形	平面計測	高さ	立地	現状
4	峰山町 1826－2	横穴式石室（円墳）	径 8	3	草生地、東開口東面傾斜地	天井石露出、かって稲荷を祭り、上方の5号墳石室内の祭檀へ連絡のため、奥壁を取除きトンネル状にしている
9	西宝町、峰山町鶴市町、西石清尾36御殿37	前方後円墳	全長27.4 前方端10 後円径13.1	1.2	尾根上にあり三町にまたがる	積石塚後円部の西方に石積みが残されているが、相当削平されている。前方部も乱され平面プランが判明するだけのもの。
10	鶴市町 御殿37	横穴式石室（円墳）	径 6	2	東面傾斜地石室は南に開口	墳丘は雑木のため明らかでないが、礫と土で築かれている。玄室の一部が開口、羨道の天井石除去
13	西宝町 香東37	横穴式石室	径 9	1.5	山頂に近い南面傾斜地	墳丘は方形を呈するが円墳の変形であるかもしれない。一部に葺石あり、墳頂に石露出
15	西宝町 西石清尾36	円墳	径 7	1.4	尾根上にある	14号より30m程東、基部に築造の形がよく残っている。盗掘されているが石室は残存する。

(2) 調査内容

発掘調査　4号．10号．13号

計測調査　9号．15号

石室計測値表

場所 / 墳名	玄室巾	玄室長	玄室高	羨道巾	羨道長	羨道高
10号墳	A 146cm	H 267cm	L 134cm	F 105cm	J 188cm	
	B 142cm					
	C 139	I 148		G 108		
	D 141					
	E 140	K 400				
13号墳	A 152	K 210	Q 105	G 90	N 191	T 90.5
	B 154		R 118	H 96	O 226	V 81
	C 162	L 210	S 103.5	L 95		X 138.5
	D 156		V 107		P 215	Y 101.5
	E 150	M 212	W 113	J 102		Z 98.5
	F 146					

3．遺跡の概要

4　号　墳

高松市峰山町1826の２に所在する横穴式石室で、東方に開口する。一帯は東に面する傾斜地で畑に開墾されている。墳丘は周囲の盛り土が流失して、石室を構築する天井石の一部が露出している。

この古墳はつい近年までお稲荷さんの祭壇に利用されており、石室内部に祭壇をもうけ、床面はコンクリートが敷かれていた。その際に床面が15㎝から20㎝程削りとられている。奥壁は一枚石であったと思われるが、現在は取り除かれて、石室全体がトンネル状を呈している。これは本４号墳の20ｍ程上方に、もう一基の横穴式石室（５号墳）があり、これも石室内部がお稲荷さんの祭壇に利用され、近年まで４号墳の中をトンネル状にくぐりぬけて５号墳まで導き、この石室内部の祭壇を参拝するという方法がとられていたようである。従って５号墳の床面はコンクリートが敷かれ、石室内部はコンクリートで祭壇が設けられているために、今回は調査の対象から除外した。

石室のプランは両袖式の横穴式石室で、石清尾山における横穴式石室群のなかでは最も規模の大きいものである。

４号墳　　正面より

9　号　墳

高松市峰山町と鶴市町の両町にかかる尾根上にあり、積石塚である。墳丘の東半が峰山開発株式会社に、西半は国有地の西石清尾36、御殿37にかかる。

全長27.4 m の前方後円墳で、墳丘はこの峰山一帯に数多く散乱する板状安山岩と、塊状の安山岩を用いて築成する。今回の調査は墳丘の計測を主体としたが、墳丘の周辺に多数の安山岩が散乱し、墳形を確実に把握することが困難な状態であった。

前方部端は積み石のほとんどが取り去られ、一部根石となるものが露出していた。この根石ぞいにトレンチを設定したが、これによってみると前方端は地山に接し、比較的大形の安山岩（径約40 cm）を用いて15石が一列に並べられている。ただ両端の根石がそれぞれ不確定であるために正確な計測値を出すことが困難であるが、概測値を出すと10 m を計る。主軸をほぼ東西にとるが、前方部は西方にある。この前方部の南側面はこれも前方端と同じように長径40～50cm程の安山岩を根石に用いていることが判明した。しかしこの調査は前方部全域にわたっておこなうことはできなかったが、今後の精査によれば前方部を形造る根石の確認は大いに期待されるところである。

次に後円部についてみれば墳丘の主軸に対して北方は当初から約1 m の高さに石積みがみられ比較的保存状態がよく、原形を保っていた。ところが南側についてみれば、墳丘を形造る積み石が崩され、墳丘の裾部を確認することができなかった。しかしこれもトレンチを設定して調査してみると北側と同じように高さ30cm程の石積みが認められ、後円部のプランを形造っている状況が明らかにされた。ただし北側と南側ではこの積み石の高さが異なっているが、これは地形によって制約を受けたものであって、北側は自然地形が低くなっているために、自ら北側の積み石が高くなってくるわけである。

後円部についても今後の精査によって原形プランおよび積石塚における構築状況を明らかにすることができるものと思われる。

主体部は今回の調査では調査対象から除外したので明らかにすることができなかったが、後円部の中央に凹みがあり特に墳丘を築いている積石が乱れているので盗堀にあったものと思われる。今後の調査をまちたい。

9 号 墳　　全　　景（前方部より）

10号墳

高松市鶴市町、御殿37番地にあって、南東に摺鉢谷をみおろす御殿山東斜面に、開口方向を南東に、(N－10°－W) とって造られた片袖式の横穴式石室墳である。

東墳丘は、ほとんど原型をとどめておらず、石室東側部分に、－25コンターでいくらか弧状の盛土現存部状態をみることができるのみである。

当初、天井石は、奥壁側に一石が確認され、石室内には開墾に際し除去した小石が投げこまれたらしく充満していた。これらの礫にまじって8片の須恵器が浮いた状態で出土している。山林と畑の境界付近にあることなどから何らかの手が加えられたものと考えられる。石室の西側壁はほぼ現存し、東側壁は根石を5石残すのみであることがわかる。

石室プランは、一次調査の2－5号墳のような両袖とは異なり西側に袖をもつ片袖式石室である。また、計測値、石室内の配石などから前回の8号墳との近似性が考えられる。

10号墳　遺物出土状況

13号 墳

高松市西宝町香東37番地にあって、海側に突出した西宝寺山山頂から南方斜面に向かってのびる舌状地先端部に、開口方向を南西に、(N—10.9°—E) とって造られた両袖式の横穴式石室墳である。

墳形は石清尾山古墳のなかでも比較的原形をとどめているのではないかと考えられる。しかし、本墳墳頂は境界にあたるため石室の石が除きとられ、現在墳丘上に南北に石列が立てられており、今日では約1 m の墳高しかつかめない状態である。

当初石室内は、堆積土、小石、および石室使用石材が埋没しており少しも石室の姿をみせていなかった。その後の排石、排土により、石室は天井石の除去された状態で、敷石床面において原状の遺物を検出することができた。

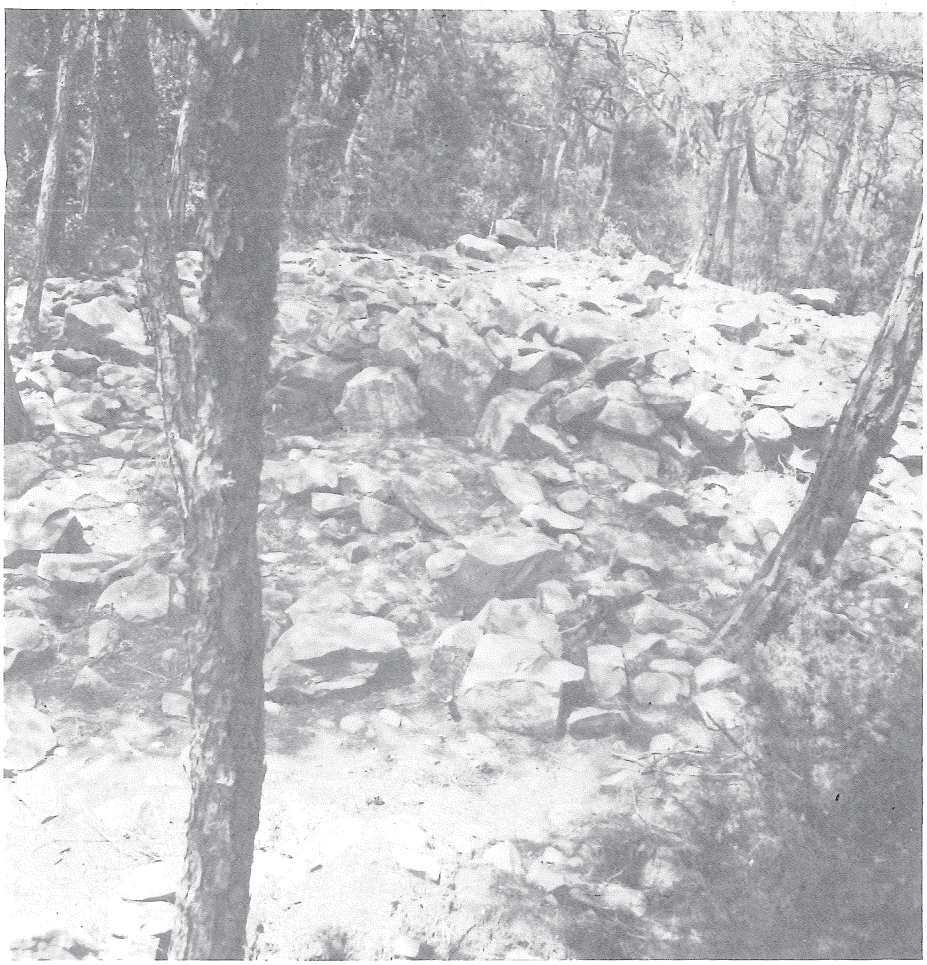
石室プランは、一次調査の2—5墳のような両袖を有している。また、計測値、石室形態等から前回の2・3号墳との近似性が考えられる。

13号墳　遺物出土状況

15 号 墳

西宝寺山の最高部(234)から東方にのびる尾根上に三基の積石塚(円墳)があり、西方から14号・15号・16号と仮称している。そのうち14号・16号は崩壊がはなはだしくて、ほとんど原形を止めていないので、今回の調査からは除外した。

15号墳についての計測は墳丘のプランの確認が問題となったが、墳丘上に積まれている安山岩を除去していくと、円形プランにそって、高さ20～30cmに石積みが認められた。これによって墳丘を計測すると径7 mを計る。ただし、墳丘の周辺に安山岩の集積があり、これも墳丘の一部を形造るものであるかも知れない。しかしこの周辺における積石に、人工的とされるような配石は認められない。主体部については墳丘の中央部がやや凹んでいるので、かって盗堀されたものがあるかも知れないが、今回の調査からは除外し、墳丘の計測を主体とした。

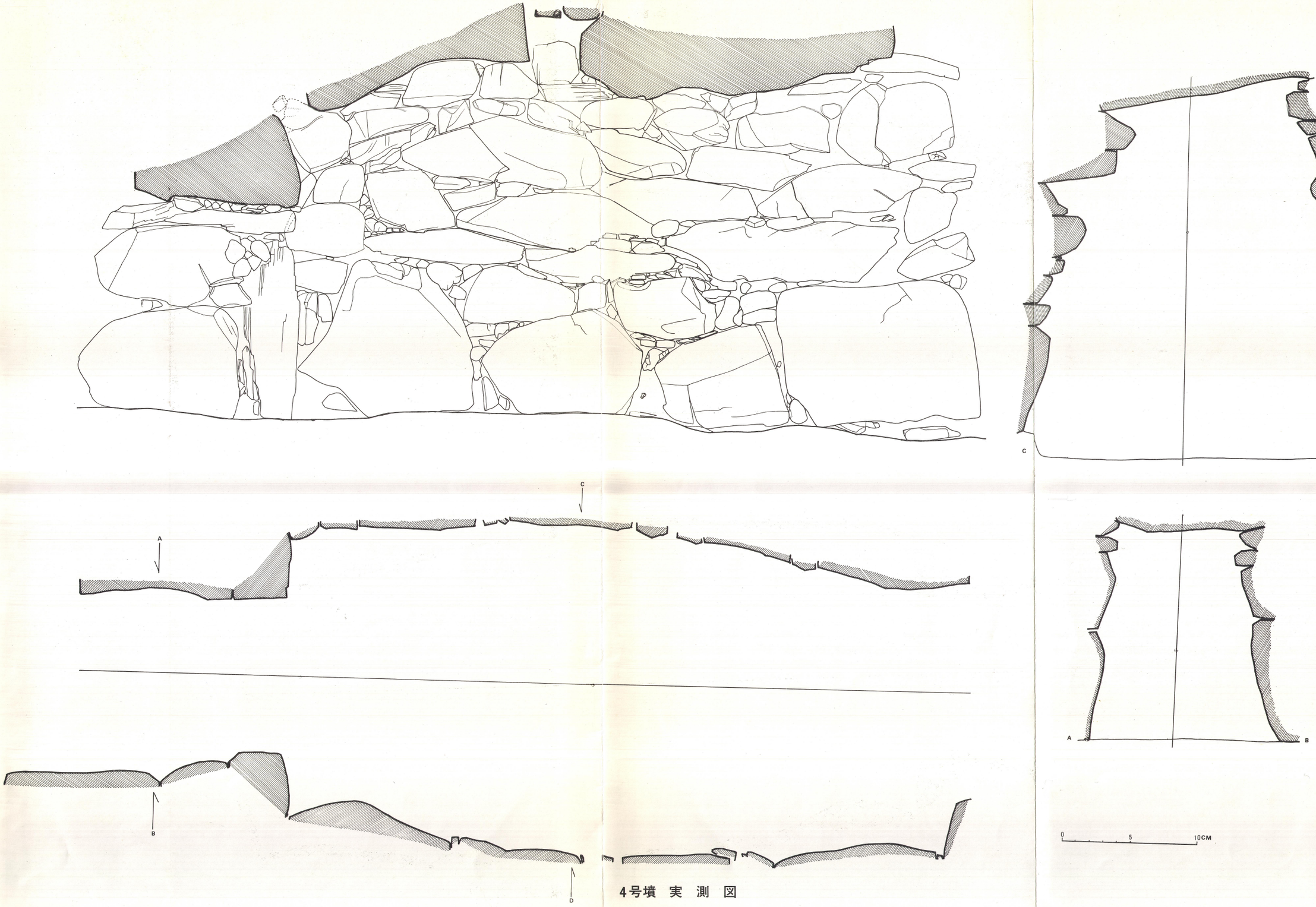


15号墳　全　景

10号墳　正面より

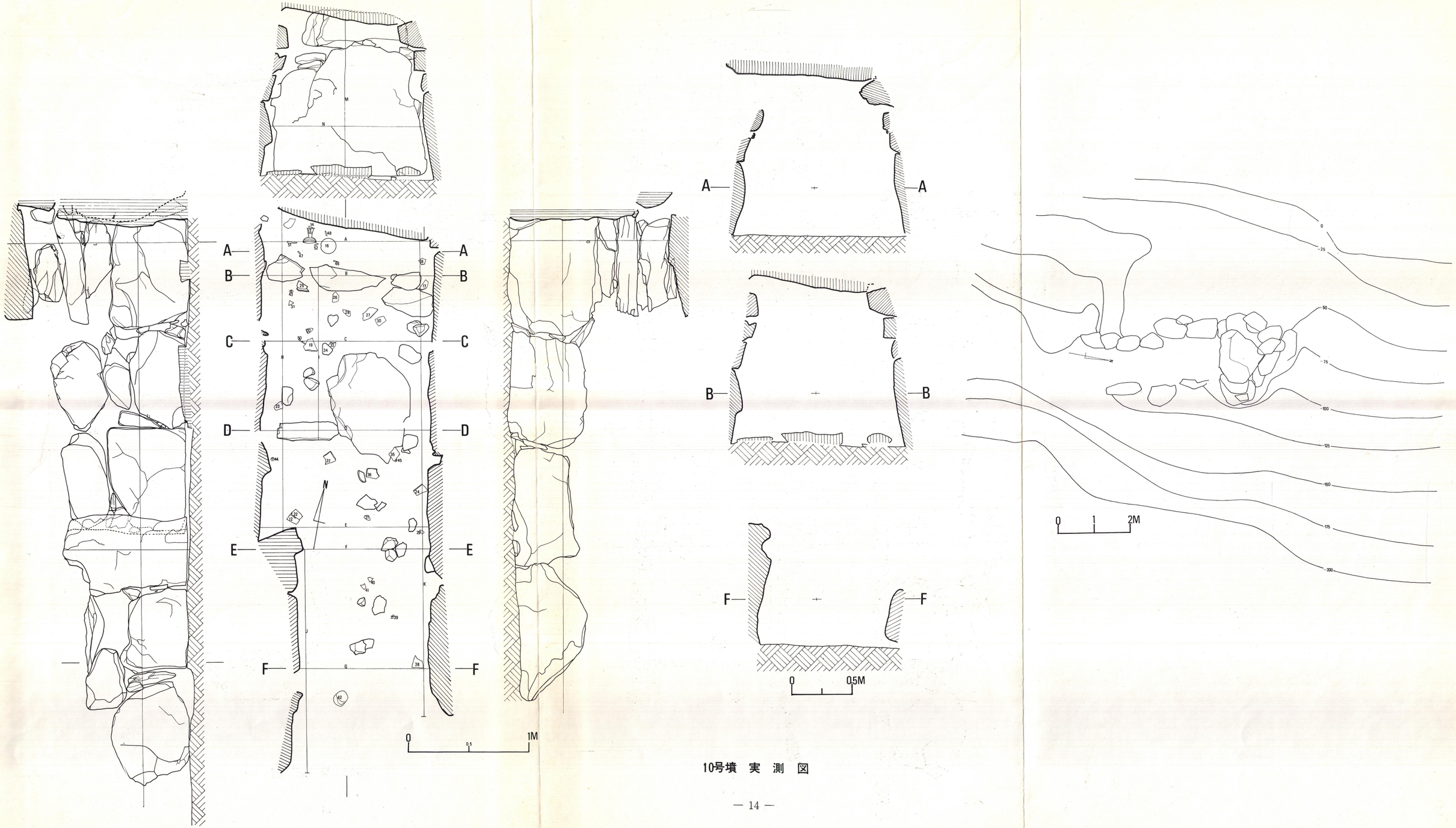
13号古墳　墳丘

13古墳　正　面

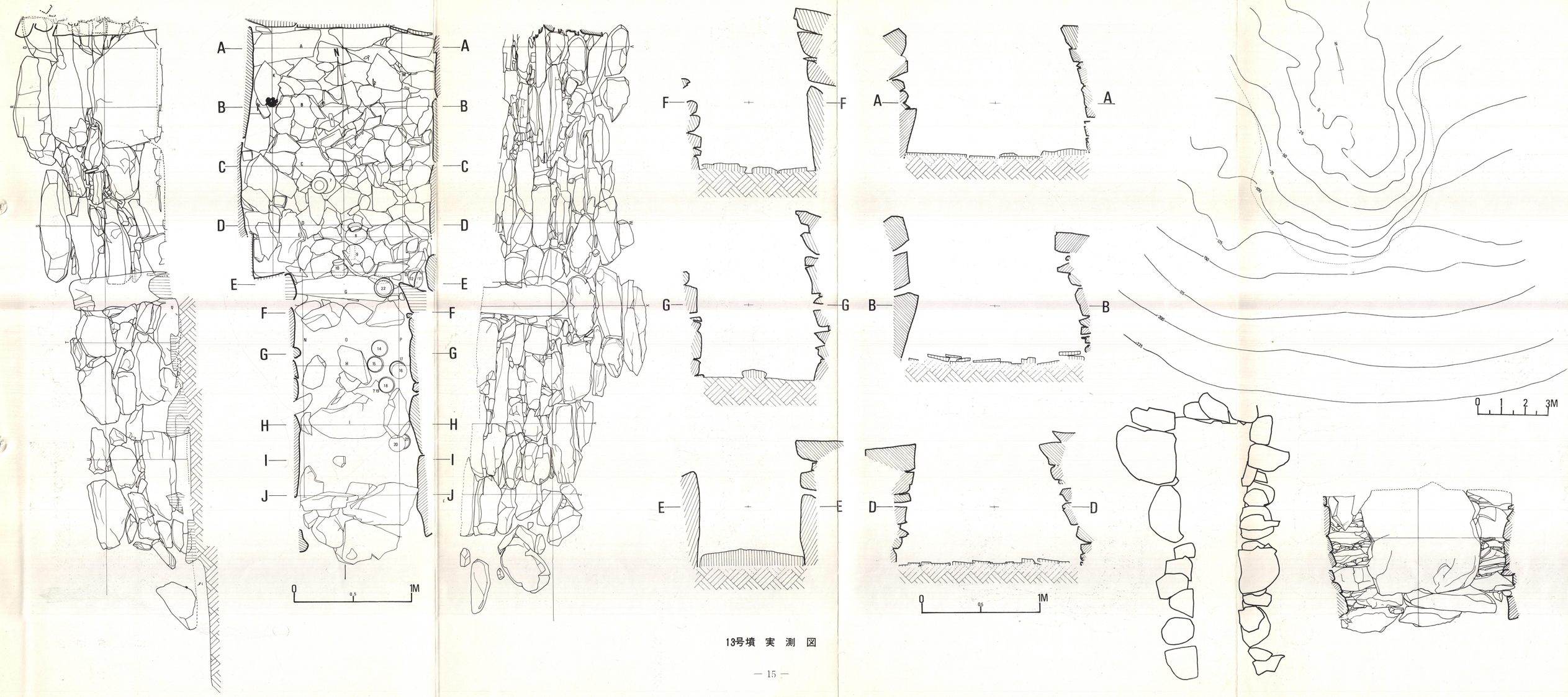


4号墳 実 測 図

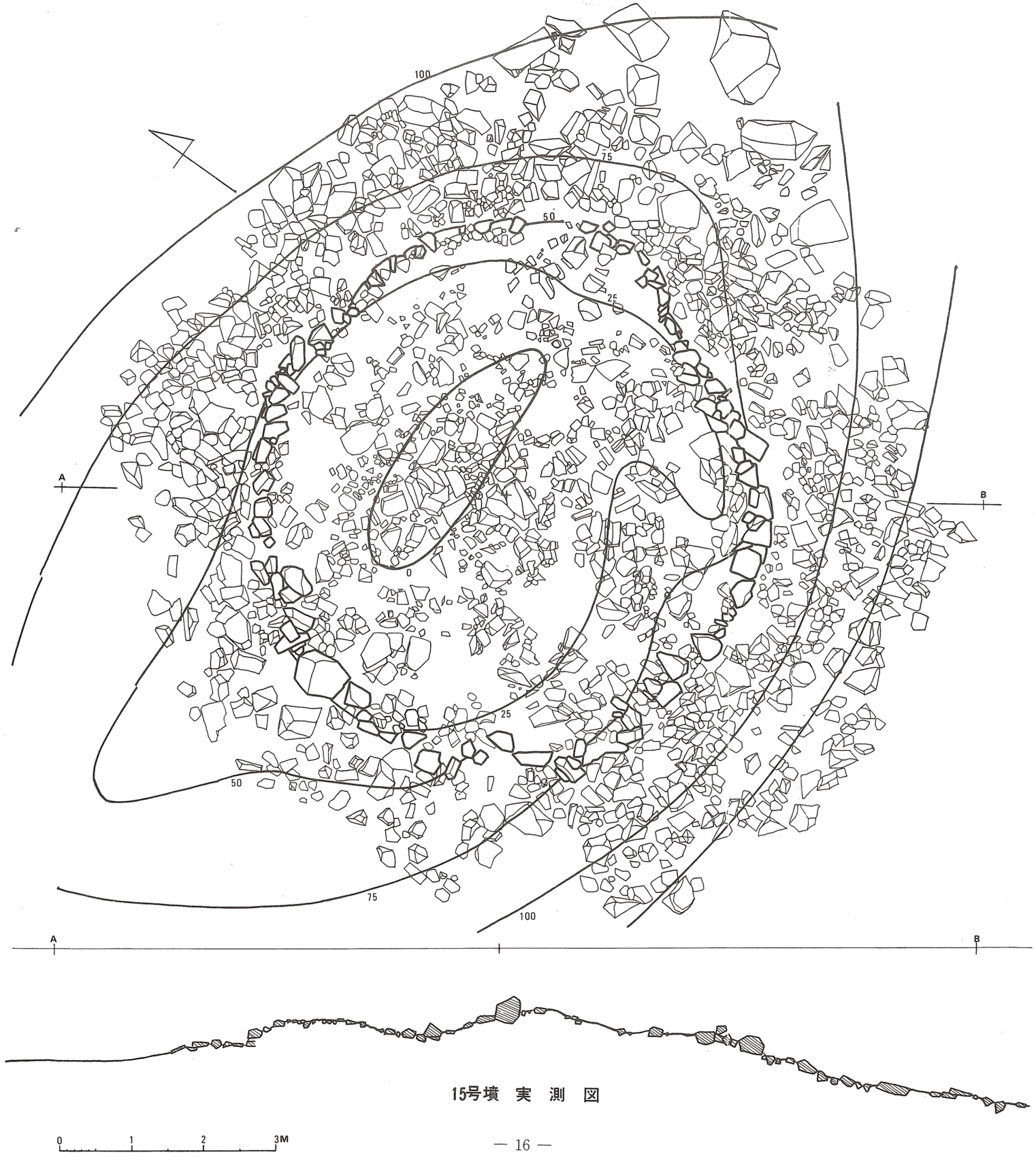
9号墳 実 測 図



10号墳　実　測　図



13号墳 実 測 図



15号墳 実 測 図